

甲 賀 警 察 署 協 議 会 議 事 録

開催日時	令和6年9月25日（水）9時30分～12時00分	
開催場所	滋賀県警察学校第6教場	
出席者	委員	大隅忠司委員、武藤敬助委員、谷村ふみ子委員、上森秀夫委員、木村準子委員、脇阪昇委員、林初広委員、吉田昌孝委員、北村正之委員
	警察	筒居署長、近藤警務調査官、依田地域課長、巡査2名
議事概要	<p>1 署長挨拶</p> <p>署長から「警察官に採用されれば、まずは育成の場である警察学校で6～10か月間過ごすこととなります。今回は卒業式を視察していただき、若手警察官をいかに育てていくべきかの協議を予定している。10年後、20年後を見据えた教育方針について御意見いただきたい。」旨の挨拶がなされた。</p> <p>2 視察</p> <p>会議の途中で、初任科第128期短期生の卒業式の視察を行った。</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 若手警察官の育成方策等</p> <p>警察から若手警察官の育成方策等の説明があった。</p> <p>その際、委員から若手警察官の代表として参加している巡査2名に対し、警察官を目指した動機、理想と現実とのギャップについて質問がなされ、巡査から「警察官に憧れて目指した。」「現場対応だけではなく、書類作成も大変で想像していたものとのギャップを感じた。」旨の回答がなされた。</p> <p>また、委員から「理想と現実が異なった際の精神的ダメージはどのように対処しているのか。」旨の質問がなされ、警察から「年齢の近い先輩や署内で指定した相談員、県警から委嘱されている精神科医等、様々な悩みに寄り添える相談システムが構築されている。」旨の説明がなされた。</p> <p>その他、委員から「自衛隊のように受験希望者に各種説明ができる場はないか。気楽に受験相談に行ける場があると良い。」旨の意見があり、警察から「本部や各署において、年に何度か採用説明会を行っている。」旨の説明がなされた。</p> <p>さらに、委員から「教養や体力が必要だと思うが、何が一番必要だと思うか。」旨の質問に対し、巡査から「コミュニケーション能力と体力が重要と考えている。」旨の回答がなされ、また、警察から「総合すると、個人の人間力が必要である。」旨の回答がなされた。</p> <p>(2) 提言</p>	

委員から「新卒者が仕事を辞める理由のトップが理想と現実とのギャップであると言われていた。実際、どれくらいのギャップを感じているのか。」旨の質問に対し、巡査から「書類の多さに驚いた。日々苦勞している。」、警察から「警察が対応する様々な現場でも書類作成が必要となる。警察学校で書類作成要領を学んでいるものの、ギャップを小さくするための書類作成の指導をしっかりと行っていく必要がある。」旨の回答がなされた。

その他、委員から「警察職員として幅広い見識を持ち、視野を広げ、世間の常識・非常識を見極めながらやっていってほしい。」、「お給料をもらえばその道のプロである。日々勉強だと思って頑張ってもらいたい。」、「厳しい訓練に耐えて立派な警察官になられる中、不祥事が起こると非常に残念に思ってしまう。不祥事のないよう頑張ってもらいたい。」旨の意見があった。

4 会長総括

会長から「卒業式を拝見し、卒業生代表の言葉・内容・話し方が警察官らしく素晴らしかった。良い刺激をもらい、自分自身も勉強していきたいと思う。」と、述べられた。

5 次回協議会の日程

11月下旬又は12月上旬に開催予定